



田植え開始です！



晴天の中で風を受けながらの田植えは、大変な仕事とは言え、気分の良いものです。



紙マルチを張りながらの田植えは特別な田植え機で行います。手間も時間も通常の何倍もかかります。



田んぼはヤゴやカエルなど生命を育むビオトープのようなもの。サギや鴨などの野鳥も舞い降ります。

★田植えが始まりました

世の中GWですが、高柳場長のところでは田植えが始まり、忙しい日々が続きます。おかげさま農場周辺の田んぼは山裾にあり、大規模地帯の田んぼとは違ってなかなか大変です。まず1枚が小さいので、畝の草刈りや田んぼの代掻きなどの時間がかかります。また、用水路から水が来ていて灌水蛇口をひねればよいところは簡単に水を貯められますが、場長のやっている田んぼの1/3はポンプで水を汲み上げないといけないので、「ガソリンを持ちながら歩き回ってポンプのエンジンをかけまくるんだよ」と、水を溜めるだけでも一苦労です。ところが水曜日に雨が降り、「ポンプで3日かかっても溜まらなかったのが、この雨でなみなみと水が張られていたんだよ。やっぱり天からの雨の力は違うなあ！」と、木曜日から田植えが出来る事になりました。

また、田植えは無農薬栽培で雑草を抑えるために、水に溶ける紙マルチを張りながら行います。紙マルチを張るには水が多くても少なくともダメで、田の水を調整するのも一苦労。また、マルチを手で押さえたり都度、紙を補充したりと通常の田植えの何倍も手間と時間がかかります。また、人の膝まで沈む深い田んぼもあり、田植え機が沈んでしまうこともあるほど。一筋縄ではいかない田んぼですが、「この辺の米作りは大変だけどやっぱり美味しいよな」と言う人が多いのも事実で、賞を受賞したことも。一般的な田んぼより何倍も大変ですが、今年も例年通り田植えをし、これから秋の収穫まで休みなく全力疾走です。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎小松菜の出荷を再開していますが、大量注文はお受けできないことがあります。